

令和6年度 第2回瑞浪市行政改革審議会会議録

1. 日時 令和6年9月26日（木） 15:00～16:30

2. 場所 瑞浪市役所 2階大会議室

3. 出席者

出席（委員） 宮嶋 恒二（会長）
中村 鈴彦
景山 英明
高橋 佑太
大竹 悦子
辻本 紀み子
[名簿順、敬称略]

4. 瑞浪市 正木 英二（みずなみ未来部長）
（事務局） 工藤 雄一（企画政策課長）
津田 良介（企画政策課企画政策係長）
暮沼 夏実（企画政策課企画政策係）

5. 日程

委員の交代について

議 事

1. 第1回会議録（案）について

2. 年度評価・総括評価の取りまとめについて

その他

1. 委員の交代について【参考資料1】

名簿確認

2. 議事

(1) 第1回会議録（案）について【資料1】

<意義等なし>

(2) 年度評価・総括評価の取りまとめについて【資料2、資料2別紙、参考資料2、3】

○参考資料2【年度評価】

（委員発言まとめ）

（1）協働による行政運営

①住民団体等の活動支援の推進

→協働による行政運営の中で、住民団体等の活動推進については、概ね計画どおり実施できていると評価する。但し、消防総務課が担当する「実効性のある防災訓練の実施」、警防課が担当する「救命率の向上を目的とした救命講習の実施」は、コロナ禍の影響はあるものの命を守るための取り組みであることを考えると、目標に掲げる参加人数を達成できるように工夫が必要と考える。

→コミュニティーセンターの機能を地域密着型の支援を追加できないか。具体的には、インターネットパソコンの設置。「インターネットをご覧ください」と誘導されることが多い。現在の高齢化社会で、インターネットを扱える高齢者がどれだけいるのだろうか。コミュニティーセンターにパソコンを設置し、楽しみながら瑞浪市を知ることができるようにしてほしい。

→草刈り機やコーンの備品貸し出しをコミュニティーセンターでできないか。

→集落支援員は土日の行事や夜間帯の会議があり大変である。地域においては大変重要であるため、若くてやる気のある職員を求める。正職員の設置をお願いする。

→社会福祉課と高齢福祉課の各種団体との連携について、達成回数が20回であるにもかかわらず、目標回数が5回であるのはなぜか。社会福祉課の評価項目は各団体との連携強化だけでいいのか。

→市内8地区のまちづくり推進協議会を中心に行政と市民が活発に活動できているが、人口が減少し、まちづくり推進協議会の担い手も少なくなっているので行政で支援してほしい。

②指定管理の推進

→指定管理制度を導入した施設が多く、市全体の運営業務の簡略化に結び付いたのはよいが、導入後の運営内容の確認をお願いする。

③市政情報提供の強化

→広報誌等印刷物は自治会加入者以外に庁内各課、各施設において現在の配布数が必要なのか。月末に余っているのはいかがなものか。

→新型コロナウイルス感染症の関係でホームページやSNSの運用が活発になったが、高齢者には困難なので丁寧にフォローするべきである。

→令和4年度は令和3年度よりホームページの閲覧者数が減少したため「○」と評価しているが、今年は令和4年度に比べ閲覧者数が10万人程度減少したにも関わらず「◎」と評価したのはなぜか基準を教えてください。

→ホームページや観光パンフレット、SNS等の活用により以前より瑞浪市のアピールに成功している。

(2) 簡素で効率的な行政運営

①業務委託の推進

→瑞浪市では水道料の業務委託は行っていないが、他自治体によってはプロポーザル方式で行っている市もあるので方向転換も良いと思う。

⑦広域行政の推進

→広域行政の推進については、ひとつの地方自治体で実現できるものでないため、引き続き他の地方自治体とも協議・検討して効率かつ効果的な広域行政を推進していただきたい。

→「観光の広域化事業」は、取り組み易い内容であるため引き続き取り組んでいただきたい。

→「消防機能の広域化事業」は、効率化の観点ではなく、人々の命を守るという観点から積極的に事業の推進を進めていただきたい。実施設計まで進んだことは評価できる。

→少子高齢化が進む中、行政の合理的な対応に感謝する。

(3) 持続可能な行政運営

②健全な財政運営

→市の財政運営については、概ね健全に運営されている。公債比率は、目標値を大きく下回るとともに、直近をみても減少傾向にある。市債残高も目標値を下回り減少傾向にある。このことから計画的な財政運営を行っているものとして確認できる。さらに、経常収支比率も適正水準を維持していることは評価できる。引き続き、健全な財政運営を行うように努力されたい。

→各行動計画事業において内部評価が高く、正しく財政運営ができたと思う。

④新たな自主財源の確保

→ふるさと納税は昨年度の目標を上回っているが、近隣他市と比較してどうであったかが問題であると考ええる。

→返礼品が魅力なものであると納税額も比例して増えると思うので、再考するのはいいか。

⑥職員定数の適正化

→令和2年度は目標を上回っているのに「○」だが、令和5年度は下回っているのに「◎」なのはなぜか。

→健康づくり課の管理栄養士が1人であり、忙しい思いをしていたが、管理栄養士を補充していただいたため手分けして業務していることに感謝する。

⑦職員資質の向上

→年次有給休暇が目標の12日に達していない職員の中に、3年以内の職員が0であることを望む。

→窓口の対応が大変親切である。高齢者は直接聞きに来ることが多いと思うが、どの課も対応が丁寧であり感謝する。

→研修等を行うことで、自己啓発の機会が得られ仕事に対して前向きになった。機会があれば他自治体のやり方を参考にし、職員の意識向上に繋げることで市民の生活をより豊かに送れるとよい。

(委員意見全般に対する事務局コメント)

- ・「救命率の向上を目的とした救命講習の実施」は、コロナ禍であろうと命に関わる重要な部分であるため、この取り組みがいかに重要性を踏まえ、目標設定する必要がある。
- ・指定管理者制度はコスト削減やサービス向上を主の目的としているが、価格の安さで決めるのではなくバランスに注意し適切に判断したいと考える。
- ・広報は月1回であり、広聴広報係を中心に記載する内容に合わせて校正の仕方を日々検討している。より伝わりやすい広報にするために今後も尽力する。
- ・広域行政の推進に関して、東美濃歴史街道協議会において沿線市で協力し合いPRや情報発信を行っている。現在、八百津町で新丸山ダムを建設しており、国交省、沿線市町が主となり新丸山ダム周辺地域振興ビジョンの活用に向けた動きがある。
- ・広報の残数は、月によってばらつきがある。地域に関連する表紙の月は多くの方に持ち帰っていただけるため、より多くの方が手にとりやすいように検討する。
- ・パブリックコメントは重要な計画案を市民にお知らせしてから意見をいただく。市民に関連する計画は特に意見が多いため、意見を踏まえて計画を変更することもある。
- ・住民生活に直結する事業はより丁寧に情報を発信する。
- ・コロナ禍をきっかけにオンライン会議が普及したため時間やコストが削減された。今後も効率化を目指し継続して行う。
- ・目標の設定や評価が曖昧な箇所がある。担当課と協議した上で整理する。
- ・指定管理に関して全施設でアンケート調査を行っている。アンケートの結果から指定管理者と対面でヒアリングをして施設の改善に努めている。
- ・便利な交通手段として現在はデマンド交通、コミュニティバスがある。今後はAI オンデマンドのデジタル化を推進するために検討を進めている。
- ・昨年度策定した地域計画に担い不足の解消に向けた記載があるため、市としても積極的に支援していく。
- ・市長と語る会は市政情報を報告する場として重要であるが、地域によって参加者が少ないので会長や役員に動員を行っている。各自治体の取り組み方を参考にしながら今後も検討を進める。
- ・コロナが流行りだした際、コロナに関する情報を毎日ホームページ上で更新していたため令和2年から令和4年にかけて閲覧者数が急激に増えた。令和5年度はコロナ禍前の閲覧者数と比較して増えたことから「◎」と評価した。

・職員定数は目標として上限を決めている。職員が増えすぎないようにするために採用等で調整しているが、令和2年度は上限より上回ってしまったため「○」と評価した。

○質疑応答

- (委員) 令和5年度の第5次行政改革の意見書から変化はあったか。
- (事務局) これまでの方針が大きく変わることはなかったが、意見を受けて促進された事業は多くある。例えば、A I－R P Aを導入し迅速な対応を求める意見が出たため、会計年度任用職員の給与支給事務や契約業務等で積極的に活用した。
- (委員) 意見書に対する各課回答はインターネットで確認できるか。
- (事務局) 公開しない。

○参考資料3【総括評価】

(委員発言まとめ)

(1) 協働による行政運営

①住民団体等の活動支援の推進

- 協働による行政運営の中で、住民団体等の活動推進については、期間中コロナ禍の期間もあったが、概ね計画どおり実施できていると評価するが、「実効性のある防災訓練の実施」、「救命率の向上を目的とした救命講習の実施」は、コロナ禍の影響があったと思われるが、命を守るための取り組みであることを考えると、目標に掲げる参加人数を大幅に下回った。コロナ禍前の参加人数の水準に戻すように努力されたい。
- 各コミュニティーセンターの事業評価は、単に参加人数ではなく実施方法に基づいて行うべきではないか。
- 目標人数が毎年変わらないものの、8年間同じ事業を続けているのが疑問である。全事業の見直しを行い、廃止すべき事業と新たに始める事業を設定する必要がある。
- 評価の項目をコミュニティーセンターごとに分けると良い。
- 清掃活動や観光案内をボランティアで扱われており、今後は参加者が減少する可能性もあるため、支援をお願いする。
- 補助金の支援により様々な活動が安心して行えるため感謝する。

③市政情報提供の強化

- 市政情報について特に注目しているので、連携して情報発信出来たらよいと考える。

⑤外部の視点による評価の推進

- 各組織で自己評価をした上で、「産・官・学・金・労・言・土」の代表等の外部評価を受け止めることが重要である。

(2) 簡素で効率的な行政運営

①業務委託の推進

- 特に問題のある「上下水道料金業務委託事業」については広く一般に公募、プロポーザル方式をとることも良いと思う。

→「上下水道料金事業委託事業」が検討状態で6年が経過している。進められない理由が明確であれば、委託事業自体の見直しが必要ではないか。

③組織再編

→時代に合った大規模な組織再編成はよかったと思うが、慣れるまでに時間がかかる。組織編成が大成功と感じられるような組織に成長してほしい。

④業務のシステム化の推進

→ペーパーレスの時代ではあるが、状況に応じて紙での配布が良いと思う。

⑤行政手続きの簡素化

→オンライン申請、キャッシュレス化が進み手続き等も簡単になった。今後は利用が困難な高齢者への支援をお願いしたい。

⑦広域行政の推進

→ひとつの地方自治体で実現できるものではないため、引き続き他の地方自治体とも協議・検討して効率かつ効果的な広域行政を推進してほしい。「消防機能の広域化事業」は、長く検討・協議されてきたが、この期間中に実施の目処を立てたことは評価する。

→病院が統合することについて、交通面で不便に感じる方のためにも丁寧な対応を求める。

(3) 持続可能な行政運営

①公共施設の見直し・再編

→施設の老朽化が現状であるが、瑞浪駅周辺再開発などの効率的な構想に感謝する。

②健全な財政運営

→期間中の市の財政運営については、概ね健全に運営されてきた。今後も引き続き、健全な財政運営を行うように努力されたい。

④新たな自主財源の確保

→創意工夫により、自主財源確保の努力の取り組み姿勢は評価する。ネットを利用する際にバナー広告が頻繁に目に入るため、取り入れることを検討するのはいかがか。

⑦職員資質の向上

→研修は講義後の座談会が重要であるため、リモートではなく対面で行うべきだと考える。

→すべての職員が年次有給休暇の目標日数を達成できるようにするため、評価においては平均取得日数ではなく、目標に達していない数値を記載するべきではないかと考える。

(委員意見全般に対する事務局コメント)

・市では公式SNSの活用を図っている。SNSの利用経験に個人差があるため今後の改善に期待される。ミライ創ろまい課の学生により市の課題を発見し、解決するための取り組みを進めている。若い力を取り入れることで情報発信がもっと強まるのではないかと考える。

- ・審議会等で出た外部評価を様々な場面で取り入れ、今後の行政運営に反映できるよう努める。
- ・ペーパーレス化を推進するうえで資料の作成に観点を置き、簡素で伝わりやすい資料作りを日頃から心がける。
- ・公共施設の老朽化が問題である現状を把握し、施設の広域化や機能の複合化を管理した施設を減らして安定した公共サービスを継続する。
- ・新たな自主財源の確保として、ふるさと寄附金が大きい割合を占めている。令和4年度から地場産品ブラッシュアップ事業を行っており、市内の事業者やビームス株式会社と連携をして監修を受けながら魅力的な返礼品を作って提供する。
- ・指定管理だけでなく事業を行う際はPDCA サイクルを基に実行する。
- ・第7次総合計画の開始に伴い、令和6年度から大幅な組織再編をした。総合計画の見直し時期を基準にして見直しを行っているが、細かな再編は日頃から考え、行っている。
- ・業務のシステム化の推進において、機械の導入により効率化は実現したが、機械を動かすための人的作業にはリスクが伴うため、慎重に考慮しながら進める。
- ・行政手続きの簡素化を進めるにあたり、システム化に対応が難しい高齢者などに対しては、丁寧な対応を心がける。他の審議会でもシステム化の効率化について意見があり、実際に試してみると意外に対応可能ではないかとの意見もあったため、丁寧な説明をすることで、使いこなせるのではと考える。

○質疑応答

- (委員) 70周年事業の内容募集をインターネットで行うとなった時に、紙でも応募できるようにしていただきたいと意見したところ、早く対応していただいた。こうした対応には感謝する。

3. その他